



定住と交流と 快適環境のまちを めざして

「広報おのまち」の7月号から、シリーズで小野町の現状と課題についてお知らせしてきました。
今月号では、シリーズのまとめとして、これまでの内容を振り返りましょう。

人口減少（7月号）

昨年10月1日に行われた国勢調査の速報値によると、日本の総人口は1億2775万7000人で、1920年に調査を始めて以来、総人口が前年を下回ったのは戦争の影響を受けた1945年を除いて初めての事です。

小野町の人口は12,103人と前回（平成12年）調査時の12,555人から約450人減少しました。昭和30年の国勢調査時の17,620人から、50年間で約5,500人もの減少となつています。この数は、合併前の滝根町や只見町の人口に匹敵するものです。

少子化（8月号）

小野町の出生数は、昭和40年には年間で322人の出生数となつていましたが、その数は年々減少傾向を続け、近年では100人前後で推移しています。昨年1年間の出生数は97人と、100人を割り込む状況になっています。

少子化の流れを変えて行くには、社会全体で若い子育て世帯を支援するとともに、若年世代の行動原理をよく理解して、就業機会の確保や医療や教育環境の充実など、子どもを安心して生み育てられる環境整備が必要なのではないでしょうか。

昨年1年間に生まれた赤ちゃんの約半数は第2子以上で、双子が3組も誕生しています。